

ったものがあらゆる対立、敵対関係を神が乗り越えさせてくださり、天上の楽園を目指していると解されます。

神（主）を信じる喜びは、詩篇に145箇所であらわれていて、その内2か所を紹介します。

（ヒ）詩篇1:1 幸いなことよ。悪者のはかりごとによらず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかった、その人。

1:2 まことに、その人は【主】のおしえを喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ。

1:3 その人は、水路のそばに植わった木のように。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。

詩篇 28:1 【主】は私の力、私の盾。私の心は主に頼り頼み、私は助けられた。それゆえ私の心はこおどりして喜び、私は歌をもって、主に感謝しよう。

（10）631小節

あなたたちはひざまづくのか、何百万の人々よ？

おまえは、創造主を感じるか、世界よ？

「創造主なる神の聖なる御姿を仰ぎ見る時、何百万の人々よ、畏敬の念をもって跪くのか？全世界の人々よ、（全人類を無から創造したもうた）創造主を感じるか。」と二つの問いを發しています。それは静かにPP問われ、「世界よ？」とWelt?にFFで呼びかけて、「星の彼方に創造主が住んでおられるに違いない」という次のフレーズ（638小節）の答えにつながります。

天上の聖なる楽園に至るには、創造主なる神の前に、謙遜にひざまずき、ひれ伏し、神をあがめることすなわち神への礼拝を通しての外、感じ取ることは出来ません。

（11）638小節

彼を星の輝く天幕の彼方に探せ！

星の彼方に彼はいるに違いない

創造主を星の輝く天幕の上の彼方に探せ！

神さまは何億光年も離れた宇宙の星々の彼方に確かにおられるに違いない。

聖書の黙示録には、天上の世界を次のように表現しております。

<黙示録<sup>11</sup> 4：2-11>

（フ）4:2 たちまち私は御霊<sup>12</sup>に感じた。すると見よ。天に一つの御座<sup>13</sup>があり、その御座に着いている方があり、4:3 その方は、碧玉や赤めのうのように見え、その御座の回りには、緑玉のように見える虹があった。4:4 また、御座の回りに二十四の座があった。これらの座には、白い衣を着て、金の冠を頭にかぶった二十四人の長老<sup>14</sup>たちがすわっていた。4:5 御座からいなずまと声と雷鳴が起こった。七つのともしびが御座の前で燃えていた。神の七つの御霊である。4:6 御座の前は、水晶に似たガラスの海<sup>15</sup>のようであった。御座の中央と御座の回りに、前もうしろも目で満ちた四つの

<sup>11</sup> 聖書最後の書物、著者は使徒（キリストの弟子ヨハネ）で迫害されて島流し先で紀元95年頃書いた。キリストが悪魔に勝利して天国（新天新地）を造り、信じる者と永遠に住まわれることが預言されている。

<sup>12</sup> 神さまの霊

<sup>13</sup> 神さまの座られている座

<sup>14</sup> キリストを信じる者を代表する御使い（天使）24人と解される。

<sup>15</sup> 神の栄光を表す海と解される